

令和5年度（第48回）県内工業高校建築設計卒業創作展の開催

「第48回大分県工業高校建築設計卒業創作展」が開催され、2月13日にその審査会がアートプラザで行われました。

この創作展は、（一社）大分県建築士事務所協会が主催し、大分県教育委員会のご後援をいただき、県内の工業高校で学ぶ学生を対象に、建築を通じて夢を創造させ、また、建築技術者として将来の夢を育んでもらうことを目的に、昭和51年から続けられて、今回で48回目となります伝統的な顕彰制度です。

今年の課題は「外とのつながり～おおいたの家」。県内の工業高校3校（大分工業・鶴崎工業・日田林工）からの応募数は19点、その中から最優秀1作品・優秀2作品・佳作4作品が選ばれました。

審査は、日本文理大学島岡成治教授が委員長を務め、委員は大分県教育庁神崎文隆教育財務課長、大分県土木建築部都瑠淳一建築住宅課長、桑田一敏施設整備課長、当協会からは仲摩和雄会長と河村晃文副会長があたりました。

審査会及び表彰式は下記のとおり開催されました。

1 開催日時

- (1) 審査会 令和6年2月13日（水）10：00～
大分市 アートプラザ 研修室
- (2) 表彰式 今年も各高校での伝達となりました。

2 受賞者

- (1) 最優秀賞 大分県教育委員会教育長賞
大分県立大分工業高等学校 工 藤 美 咲 さん 渡 邊 優 羽 さん
- (2) 優秀賞
 - ① 大分県立大分工業高等学校 岩 本 拓 真 さん
 - ② 大分県立鶴崎工業高等学校 弓 場 空 翔 さん
- (3) 佳作
 - ① 大分県立大分工業高等学校 廣 末 一 汰 さん
 - ② 同 山 口 愉 楓 さん 山 添 陽 生 さん
 - ③ 大分県立日田林工高等学校 横 田 梨 紗 さん
 - ④ 同 田 中 翔 さん

3 設計課題「外とのつながり～おおいたの家」

家はそこの住む人や家族にとっての生活の拠点です。寝食や家族の交流など、ここから行えることがある大切な場所です。しかし、今の私たちの住まいは、一方でその機能を一般単純化し、他方でセキュリティやプライバシーの観点から、閉鎖的画一的になっていないでしょうか。

私たちの生活は家の中で完結することなく、さまざまな形で家の外に広がっています。ここでは、家とその外のつながりをもう一度考えてみましょう。それは、豊かな自然であったり、友人や隣人たちとの交流や地域とのコミュニティとのつながり、あるいは仕事を含めた社会とのつながりであったりするかもしれません。

大分の地にふさわしい「外とのつながり」を考え、そのための空間や場所を家の中やその周辺に設定することによって、豊かで魅力的な「おおいたの家」を提案してください。

最優秀賞
大分県教育委員会教育長賞

「田んぼダム」の棚田が織りなす 酒蔵と農村景観

設計趣旨



大分工業
工藤 美咲



大分工業
渡邊 優羽

近年の気候変動により、河川の氾濫をできるだけ防ぎ、減らすための対策が必要とされている。「田んぼダム」とは、田んぼの排水口に板などを設置するだけで、線状降水帯などの大雨に対する水の量を最大で20%余りも抑える効果が確認されているもの。この活動は堤防の改修やダム工事と比較して、「大規模な工事費が必要ない」というメリットがある。

いまある田んぼを雨水で満たしても稲の育成、品質や収穫量に影響はないとされており、大雨が落ち着いて農作業を再開した際は、堰板を外せば水位が下がり、農作業への影響も少ないと言われている。県内全ての田んぼを「田んぼダム」にした場合、水位にして10cm分ため込んだ量になり、大分川の上流にあるダム1基分に相当するとのことだ。しかし導入の課題は「何よりも農家の人々の理解を得ることが重要」だという。

今回設計した場所は室町時代以前から、水路を開拓し続けた豊後大野市緒方川流域の水田が織りなす農村景観。大野川上流から引かれる富士緒水路の用水は、軸丸棚田を潤した後、軸丸川へと流れ込み、緒方井路から緒方盆地左岸の圃場を潤す。この長距離トンネルの掘削・橋梁架設・サイフォン作用などにより、標高の高い丘陵地帯に棚田が営まれるようになった。また窪地の山際には、所々湧水地の「イノコ」と呼ばれる共同水源があり、その水で育った稲と名水による銘酒も有名である。高台にある酒蔵から

「日本の棚田百選」である軸丸棚田を眺め、水と棚田が織りなす農村景観を文化遺産として今後に残す、地域のつながりをコンセプトとした。

この素晴らしい文化的景観は、長い年月を経て形成されたもので、地域の人々の生活や営み、風土により形成された景観地で、これから先も永遠に日本の「重要文化的景観」として遺していかなければならない場所だと考える。

今回の設計により、災害時の「田んぼダム」の活用や、「イノコ」や農業用井路の保存など、県にある歴史遺産の保護や、今後の活用を考えることができた。



優秀賞

始まりの家

～織りなす形でつながる人と自然～

設計趣旨



大分工業
岩本拓真

家は始まりの場だ。朝起きてからの1日の始まりであったり、新たな生活の始まりであったり、新たな趣味の始まりであったりする。さらに家には、地域との交流や仕事場、食堂などさまざまな用途も期待されている。

これらの始まりには、自然とつながることが大切だ。自然と直に触れ合える環境があることで、普段の生活に心地よさを与えられ、健康にもつながると考える。

そのため私は、別府市十文字原の緑あふれる美しい景観や別府湾を見下ろす眺望を、ガラス越しではなく直に観光客に楽しんでもらうために、レンタルサイクルステーションを併設した家を提案する。

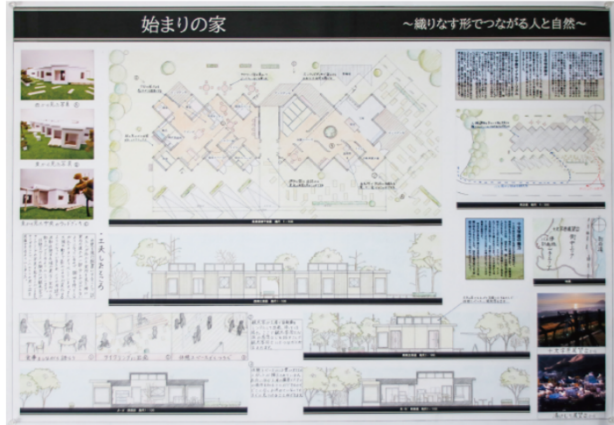
レンタルサイクルステーションでは、観光客が宿泊もできるよう考えており、運営には常駐の職員が必要となる。また夕食を職員と観光客が一緒に取るようにしているため、食を通じて別府とさまざまな地域との交流もできると考えた。

別府は海と山に挟まれた自然豊かな場所であり、その自然を目と体で感じるためには、十文字原が最適だと考えた。「十文字原サイクルツーリズム」を推進することで、地域の観光資源を掘り起こすきっかけ

となり、地域との交流により地域の活性化、観光客の健康促進、排ガスを出さないことから環境の改善などにもつながる。

既にこの場所はサイクリスト達に親しまれているが、ライトな観光客にとってはアクセスが難しい。そこでこの場所には車やバスで訪れ、ここから自転車に乗って観光ができるように、設計場所をバス停の周辺で計画した。そうすることで、自転車が地域と観光客に新たなつながりを生み、新しい価値を見つけるきっかけとなる。

さらに、普段では感じることの少ない森の木漏れ日、植物が風に揺れる音など、これらを五感で感じることができる、新たな「始まりの場」ともなる。



優秀賞

HOME SWEET HOME

設計趣旨

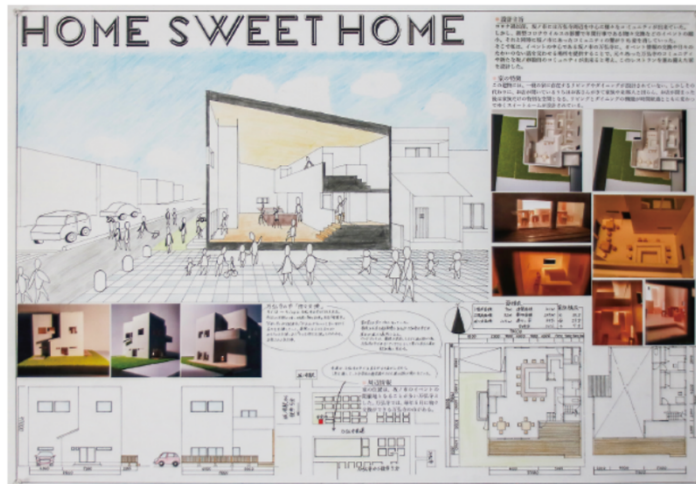
コロナ禍以前、坂ノ市には萬弘寺周辺を中心にさまざまなコミュニティができていた。しかし、新型コロナウイルスの影響で、年間行事である「萬弘寺の市かえんかえ（物々交換）」などのイベントの縮小、それと同時に坂ノ市にあったコミュニティのつながりも姿を消していった。

そこで私は、イベントの中心である坂ノ市の萬弘寺に、イベント情報の交換や日々のたわいのない話を交わすことのできる場所を提供することで、元々あった萬弘寺のコミュニティや新たな坂ノ市独自のコミュニティができると考え、このレストランを兼ね備えた家を設計した。

この建物には、一般の家に存在するリビングやダイニングが設計されていない。しかしその代わりに、お店が開いているうちはお客さんが来て、家族や来客人と団らん、お店が閉まった後は家族だけの特別な空間となる、リビングとダイニングの機能が時間経過とともに変わってゆく「スイートルーム」が設計されている。



鶴崎工業
弓場空翔



佳作

田舎的コミュニティ

～棚田暮らしのススメ～

設計趣旨



大分工業

廣末 一 汰

の文化財も数多くあり、昔からその土地を守っている。

私は内成棚田と地域・生活をつなげることで、棚田がないと成立しない生活ができ、棚田の思い出（歴史）に生活の思い出も残ると考えた。

さらに、この場所に観光客を呼び込むことで地域だけでなく、全国にもネットワークがつながり、もっと魅力ある場所へと変化すると考える。

「自然」にはつなげる効果がある。環境としての「自然」は、私たちの生活に恵みや匂い、光や風を運ぶ。また、言葉としての「しぜん」は、「自然と話す」やあいさつをする、「自然と目が合う」など、人との交流を表す。

しかし現在は近代化が進み、環境としての「自然」と離れ、人との「しぜん」から遠ざかるようになった。そこで私は、大分のたくさんの「自然」を、人の生活の流れの中に取り入れ、さらに、生活の中やデザインにも取り入れることで、豊かで魅力的なおおいたの家が設計できると考えた。

設計場所は別府市の「内成棚田」にした。内成棚田の歴史は古く、鎌倉時代の文献にも記載されている。集落には大神峰神社や蓮台寺、石城寺など



佳作

湯布院温泉 結

人が集まり異国との縁を結ぶ旅館

設計趣旨



大分工業

山口 愉 楓



大分工業

山 添 陽 生

はうってつけの場だ。都会の喧騒から離れたこの静かな空間は、人と人、国と国とがより強く結びつく場所になると考える。

コンセプトは「子育てを終えた夫婦の新たなライフワーク」。

子どもが就職とともに家庭から巣立った。夫は生まれ育った湯布院で旅館を経営したいという夢を持っており、このタイミングで都会から湯布院への移住を決めた。同郷出身の妻は海外旅行が趣味で、異国文化に興味・関心を持っている。語学も堪能である。その語学力を発揮して隣国である韓国や中国など東アジアの人たちと交流し、異文化を学びたいと考えている。

湯布院は湯治場として有名であり、外国人観光客も多い。観光客には和室を提供し「和の暮らし」を体験してもらう。食事は共同のダイニングで、そこでの会話は国境を越え、日本・大分・湯布院と世界中の人たちとつながる新たなコミュニティとなるだろう。

大分県には多くの観光地があり、湯布院もその一つだ。近年は日本のみならず、韓国や中国からたくさんの観光客が訪れ、「外」とつながるに



佳作

海で繋がる家

～波の音が呼び寄せる～

設計趣旨



日田林工

横田 梨紗

海が綺麗な姫島に村民から観光客などいろいろな人が集う建築物を設計した。場所は、姫島港フェリー乗り場横の広場で、広さもあるのでさまざまなイベントに活用するのに最適な場所となっている。

広場南側の海が見えるところに、1階がカフェ兼村民が集まれる大広間、2階が住宅となっている。カフェは縁側から外に出ることができ、海を一望できる。展示・販売スペースでは、村民の作品展示や民芸品の販売をし、観光客の思い出としても残るようにする。大広間は、イベントや地域の集会などをするとときに使用する。普段はカフェの飲食スペースとして使用する。

2階はカフェを経営する夫婦家族が住む。リビングには大きなはめごろし窓が二つ設置しており、海の四季折々で変わる景色を見ることができる。

パントリーにはカフェで使用する食材も保管し、1階と2階をつなぐ食品用エレベーターで移動させることができる。

ベランダは、リビング横と子ども部屋、夫婦寝室横の二つあり、どちらも広く床は芝生で屋根も付いており、一年中使用できる。リビング側では、友達などを呼びバーベキューをしたり、反対側ではハンモックを置いて家族だけのリラックスした時間を過ごせるように設計した。



佳作

結

～我が家のリノベーション～

設計趣旨



日田林工

田中 翔

私が住んでいる家は、日田市の小野地区付近にある築100年以上という長い歴史を持つ建物で、老朽化が進んできている。そこで、家のリノベーションを考えるとともに、地域に人を呼び込めるような施設を建てようと思い、設計を行った。

グランピングの建物はそれぞれ「自然あふれる景色を見ながら疲れをとることのできる空間」、「伝統的な行事や技術を体験することができる空間」になるように設計した。また、この付近では見ることもない特徴的なグランピングにすることで、遠くからでも見る人の興味を引くような外観にした。

平屋については、平屋の中央部分を吹き抜けにし、吹き抜け部分の周りに部屋を配置することで、家全体が明るくなるように計画した。

吹き抜け部分には畑と中庭を設け、家の内側で野菜を育て、その育っている野菜を中庭で見ることができるように配置した。

また、北側にはデッキを配置し、平屋の方からも外の自然を見ることができるようにした。

